



一、思事やあまた

山程（やまふどう）にあていん

渡海（とけ）ゆ隔（ふいじや）じや

みとうてい

自由もならん

二、鳥（とうる）や唄るとうん

夜（ゆ）や明けてえ呉（くい）るな

まりぬ手枕ぬ

語れでむぬ

三、我肝寂さびと

干瀬叩く波や

変わて思無蔵が

名残立ちゆさ

四、空飛ぶる鳥ぬ

物言やちよん云りばよ

自由ならん無蔵に

いやいすしが

五、身に余る恩義

如何し忘らりが

胸内に積むる

我身の思い